

●目論見書の注目ポイント

### 1 ファンドの目的・特色

◆ファンドの目的◆  
先進国株式へ積極的に投資し、お客様の財産の成長を目指します。

◆ファンドの特色◆

- 日本を除く先進国の代表的な株式を投資対象とします。
- 「フューチャー・コクサイインデックス(円換算ベース)」をベンチマーク(運用目標)と、ベンチマークを上回る運用成果を目標とします。
- 原則として、為替ヘッジは行いません。

◆ファンドのポイント◆  
高い成長が期待できる国際企業に投資するファンドです。  
 ・先進国の中でも成長力のある企業に注目し、投資機会を求めるファンドです。  
 ・世界中へ調査網を広げ、大きな成果を狙ったプロードで運用を行います。

◆収益分配方針◆  
毎決算時(原則 3月31日。同日が休業日の場合は翌営業日。)に弊社の収益分配方針に基づき、分配を行います。

### 1 ファンドの目的・特色

ファンドの目的・特色には、そのファンドが、何に投資して、どう運用するのが書かれている。お客様のニーズや投資の考え方や、商品が適しているかどうかを案内しよう。決算日(分配日)もここで確認できる。  
 例えば「主に国内外の公社債、株式及び不動産投資信託に投資し、「安定的なりターン」を目指し、「2回決算」をするといったことがここから分かる

### 2 投資リスク

◆基準価額の推移・騰落率◆  
ファンドのリスクを把握・比較するための、参考資料を掲載しています。

目論見書からは、ファンドのリスクも分かる。「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」が掲載されているので、日本株、先進国債、新興国債などの資産のリスクと、当該ファンドのリスクがどの程度違うのかといったことを見てもらおう

### 2 投資リスク

投資信託は、お客様に目論見書を確認してもらって、「私は商品を理解し、リスクやコストについても納得したうえで、この商品を購入入します」という意思表示を得て初めて契約となる。これはネットで契約する銀行・証券でも同様で、目論見書をダウンロード等して閲覧したうえで、同意ボタンを押さなければ注文できない。このように目論見書は、投

### 3 運用実績

◆基準価額・純資産の推移◆

◆分配の推移◆

決算期	分配金
2016年3月	0円
2017年3月	0円
2018年3月	0円
2019年3月	0円
2020年3月	0円
設定累計	0円

◆主要な資産の状況(マザーファンド)◆

資産別購入状況	比率
株式	99.0%
現金・その他	1.0%

組入上位10銘柄	銘柄	業種	比率
1	ミライ重工業	製薬業	5.6%
2	キンダイグループ	電気機器	4.2%
3	コダイ繊維	化学	3.1%
4	フューチャー自動車	輸送用機器	2.7%

目論見書の運用実績には、基準価額・分配金再投資基準価額、純資産総額の推移、組入上位銘柄などが記載されている。投資信託の場合、過去の運用実績が良いからといって将来も良いとは限らないが、ファンドの目的欄でうたっていることが、過去において実現しているかどうかを検証することは有効だ。こうした着眼点で、本欄をチェックしてもらおうとよい

(注) 本サンプルは架空のものであり、実在する運用会社・投資信託とは一切関係ありません

顧客本位の提案につながる!

# 運用会社が提供している「資料」をこう活用しよう!

## 金指光伸

投資信託には、運用会社が作成・配布している様々な資料がある。ここでは目論見書・月次レポート・運用報告書を挙げて、活用のポイント・上手な説明法を解説する。

### 1 目論見書

活用のポイントはココ!

- ▶ ファンドの目的・特色から、ニーズに合った商品が確認してもらう
- ▶ リスクやコストについても明示されているので説明に活用

**投** 資信託は、お客様に目論見書を確認してもらって、「私は商品を理解し、リスクやコストについても納得したうえで、この商品を購入入します」という意思表示を得て初めて契約となる。これはネットで契約する銀行・証券でも同様で、目論見書をダウンロード等して閲覧したうえで、同意ボタンを押さなければ注文できない。このように目論見書は、投

資信託を販売する際に、必ずお客様に交付する重要な資料で、そこにはお客様へのアドバイスの役割も果たしている。例えば、ファンドの目的・特色、投資リスク、運用実績、手続・手数料等の項目が記載されている。投資信託を販売するときには、お客様のニーズを聞き、それにマッチすると思われるファンドを紹介することが必要だ。

その際に、目論見書にあるファンドの目的やリスクを説明することで、お客様にこの商品が自分に適した商品なのかどうか、判断してもらいやすくなる。

**目論見書の確認を通じ  
ミスマッチを避ける**

筆者は、投資信託は本当に素晴らしい金融商品だと思う。投資信託があるから、ニューヨークのオフィスビルや、日本を代表する225社に投資し、株主になるのと同じような運用ができる。しかし、ある人にとってニーズを満たす素晴らしい商品がある人にとってはニーズに合わない商品となるケースもある。

例えば、バランス型ファンは「中長期的に安定的なりターンを目指す」という目的があるが、「積極的に高いリターンを追求したい」お客様には必ずしもマッチしない。投資信託は、必要な人に届けて初めてその価値が認められる。ミスマッチは避けなければならぬ。

それだけに目論見書にあるファンドの目的・特色や投資リスクなどを示して、お客様の商品知識を深めるとともに、具体的な運用のイメージをつかんでもらおう。それが間違いのない商品選びにつながる。